

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム どうぶはうす	評価実施年月日	H21. 7. 10																				
評価実施構成員氏名	ユニット名 1F しらかば <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">管 理 者</td> <td style="width: 25%;">高 坂 悦 子</td> <td style="width: 25%;">介 護 職 員</td> <td style="width: 25%;">後 藤 華 代</td> </tr> <tr> <td>計画作成担当者</td> <td>梅 川 泰 彰</td> <td>介 護 職 員</td> <td>松 田 明 美</td> </tr> <tr> <td>介 護 職 員</td> <td>佐 藤 和 博</td> <td>介 護 職 員</td> <td>林 谷 栄 子</td> </tr> <tr> <td>介 護 職 員</td> <td>中 田 律 子</td> <td>介 護 職 員</td> <td>山 谷 緑 子</td> </tr> <tr> <td>介 護 職 員</td> <td>新 岡 和 枝</td> <td>介 護 職 員</td> <td>鈴 木 洋 子</td> </tr> </table>			管 理 者	高 坂 悦 子	介 護 職 員	後 藤 華 代	計画作成担当者	梅 川 泰 彰	介 護 職 員	松 田 明 美	介 護 職 員	佐 藤 和 博	介 護 職 員	林 谷 栄 子	介 護 職 員	中 田 律 子	介 護 職 員	山 谷 緑 子	介 護 職 員	新 岡 和 枝	介 護 職 員	鈴 木 洋 子
管 理 者	高 坂 悦 子	介 護 職 員	後 藤 華 代																				
計画作成担当者	梅 川 泰 彰	介 護 職 員	松 田 明 美																				
介 護 職 員	佐 藤 和 博	介 護 職 員	林 谷 栄 子																				
介 護 職 員	中 田 律 子	介 護 職 員	山 谷 緑 子																				
介 護 職 員	新 岡 和 枝	介 護 職 員	鈴 木 洋 子																				
記 録 者 氏 名	高 坂 悦 子	記 録 年 月 日	H21. 7. 15																				

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「安心と安全」「尊厳のある生活」「地域社会とのつながり」を運営理念にかかげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	名札の裏、スタッフルーム、運営理念を掲示しスタッフ一人一人が意識して取り組んでいる。	理念に基づき、利用者の尊厳を大切に介護していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	町内会に加入しており、「とうぶはうす便り」を回覧板に載せたり町内会の婦人会の見学会を行う等理解されるように努めている。	○ 今後の引き続き続けていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩、ゴミ捨ての際などに、近隣の方々に会った時は、挨拶をかかさないと意識し努めている。	○
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の回覧板にホーム便りを掲載している。運営推進会議を行っているが、今後町内会等の行事に参加し、交流に努めたい。	○ 老人会などボランティアを頼んだ際は、近隣の方にも声掛けをし、一緒に楽しむ機会を作っていきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を開催しているが、その中で地域の住民の相談窓口となれるような、体制作りを検討して見てはどうかとの意見があり、今後検討していきたい。	○ 今後、近隣の方の介護に関する相談などの窓口を開設していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>留意事項を熟読し、理解に努めていると共に、改善事項については職員全員で協議の上、改善に向けて努めている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>年に数回、運営推進会議を開催し、会議の中で出た貴重な意見を活かそうと努力している。</p>	○	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>介護保険制度や介護保険法の内容についての確認、あるいは、その他相談事項がある時は、市と話し合いを常に行っている。</p>		生活保護の方の面接に来て頂いている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>地域権利擁護事業は、市社会福祉協議会が実施しており、成年後見人制度については、札幌市がその事業を実施しているので、必要な人については、それらの活用について支援していきたい。</p>		パンフレットが置いており、いつでも相談に乗られるようにしている。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員がいつも見られるようにしている。 身体拘束廃止委員会を設置している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時、家族に対し、契約の内容、重要事項説明書、重度化した場合における対応指針について説明を行い、理解を得ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書の中に苦情相談窓口及び苦情処理体制について記載されており、契約時、利用者及び家族に説明している。ホーム内に苦情の受付を提示しており、又、ご意見箱を設置している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ふれあい日誌を毎月送付している。健康状態に異変があれば、その都度家族に報告している。		家族の来所時などに報告している。日誌などはわかりやすい内容になるよう努めている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	13と同様		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回、各フロア一会議、数ヶ月に1度、全体会議を行ない、意見提案の機会を設け反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	介護が円滑に行えるように、柔軟な対応に努めている。又行事時など職員数の確保に努めている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動については、極力最小限におさえるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>外部への講習に参加すると共に、フロアー会議時に発表しスタッフ全員で共有している。又疑問、質問には、朝のミーティングやフロアー会議の中、職員の育成に努めている。</p>		外部研修に参加する機会を設けたり、資格取得のため学校に通うなど意欲的に取り組んでいる。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>管理者は、定期的開催される市、区の管理者会議に出席し、積極的に交流を行っている。</p>	○	管理者同士の交流はあるが、職員の交流はないので、運営者の違う同業者との交流を持って行きたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>定期的に親睦会を行ない、職員同士の交流を図っている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>管理者、リーダーから勤務状況、変化などを聞き、把握するよう努めている。</p>		年一度自己評価表をもとに面接を行っている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>管理者が、情報収集等を行っている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前に家族との事前面談を行ない、又、管理者と入居前話し合う機会を設けており、信頼関係に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容をよく説明、聴いた上で、最終的には、自己決定を促す様努めている。	○	
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前、自由に見学出来る様配慮しており、納得した上でサービスを開始する様に努めている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の生活歴や趣味などを聴き、個性を尊重し、その中から色々な事を学び、共に支えあう関係作りに努めている。	○	
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族面会時、本人の状況などを交えながら、コミュニケーションを取っている。又、通信物やふれあい日誌を通して、本人の状況を伝え、共有するように勤めている。	○	お茶をお出しする際など家族に近況報告などしている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事などの参加を呼びかけ、家族とのつながりを支援している。	○	家族と疎遠になっている方もおり少しでも改善できるよう努力していきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や電話、手紙を通して、行なっている。		希望時はホームにて一緒に昼食を摂って頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	耳の遠い方には、職員が介入し、ゲームを通してコミュニケーションを図っている。		1F、2Fの行き来を多くし、より多くの入居者とのコミュニケーションを図れるように努めている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了した家族、利用者とは、あまり関わりをもっていない。	○	電話などで近況の把握に努めていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを傾聴し、なるべく意向に沿うよう努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、本人からできるだけ話を聴いている。本人の行動からも読み取るよう努力している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ふれあい日誌、連絡ノート、朝、昼、夕のミーティングなどにより、把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的に介護支援専門員と共にフロア会議で、アセスメント、ケアプランの見直しを検討し、家族とも話し合いながら、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月ケアプラン会議を実施している。 状況に変化があった時は、その都度対応している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ふれあい日誌、連絡ノート、フロア会議で常に情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時々々の要望に応じて柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、警察、消防(防災訓練)など協力を得ている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合う機会はほとんどない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	自立支援の入居者に関して、必要に応じ、連絡を取っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的に主治医、看護師の訪問を受け、健康管理を行なっている。随時送りノートに書き込みスタッフ全員で共有している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医にいつでも相談できる体制を取っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションに週1度来てもらい、相談などしている。看護師に健康状態を報告しアドバイスをもらっている。また主治医とも連携が取れている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人の状況を把握し、家族、医療機関との情報交換を行なっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合における対応指針を作成しており、又、家族に対しては説明をした上で同意書をとっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族、管理者、主治医と話し合いを行ない、検討、準備を行なう様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族との情報交換を行ない、本人にとって一番よい方法を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員個人の意識のもと、プライバシーに配慮し、又、記録等の個人情報に関しては、ロッカーに保管している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	常に利用者の話を聴き、納得する生活が送れるよう支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを大切に、希望に沿うよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	2ヶ月に1回定期的に理美容師が訪問し本人の希望を聞きながら、カット、パーマ、毛染めなど行なっている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者、職員が協力し、準備、後片付けを行なっている。		月1回程お楽しみ弁当の日をメニューに組み込み重箱に入れて楽しみをもってもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体調に配慮しつつ、楽しめる様に配慮している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、声掛けをしながら、誘導している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に合わせて、入浴を楽しんでもらっている。		なるだけ声掛けを心掛けている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の体調、リズムに合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	各自、出来る範囲でもやしの芽取り、食器拭き、体操、歌、レク、散歩など行なっている。		カラオケの機械を購入し歌を楽しむ機会を増やし、カラオケ大会など室内で出来る行事を増やしている。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理出来ない方はホームで預かり、保管、管理している。本人に買い物希望を聞き、週1度スタッフが代行している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日々、希望にそって、近くの公園、神社などの散歩、中庭での日光浴、シャボン玉、ボール投げなど、個々の体調、歩行状態により行なっている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事の中で(買物、外食、公園散策など)同行希望の家族と共に出掛けている。出掛けるときは必ず電話連絡、又はお手紙を送り希望を聞いている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室に子機を持っていき、気がねなく話せるよう支援している。本人希望時には、番号を押すことを支援している		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時には、お茶を出し、近況報告を随時行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、スタッフがいつでも見られる様にしており、委員会も設置している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の防犯のため以外は、施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼間はさりげない声掛け、見守りをしている。 夜間は、定期的に巡回している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、洗剤、刃物等の保管場所が決まっている。 その時の状況に応じて本人又は家族と相談して預っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書を作成し、フロー会議などを開き、その都度検討している。 薬に対してはトリプルチェックを実施し、誤薬が無いように努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも見られるところに貼っている。 普通救命講習を定期的に受けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を年2回、5月と10月に実施している。 全職員が避難場所の把握をしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時、入居時に随時、家族と話し合っている。 来所時に近況報告しスタッフと家族が情報を共有できるよう取り組んでいる		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ふれあい日誌に書く以外に、口頭、送りノート記入し、出勤時に目を通すなど、情報を共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬のリストがファイルされており、いつでも確認する事が出来、全職員が把握している。 薬局と常に連携をとっており、疑問のある時はいつでも適切な指示を仰げる。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分、運動、レクなどの促し、食事にも繊維物を多く摂れるように配慮している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアを促し、介助、見守りをしている。また週に1度入れ歯洗浄剤で除菌している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日誌への記録を通し、個々の状態を把握し、1日を通して確保できる様に促し、声掛けをしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、常に見る事ができる。 インフルエンザ予防接種(全職員、入居者)を受けている。 うがい、手洗い、受診の際のマスク使用を徹底している。 トイレ掃除は1日4回、手すり、ドアノブは1日2回の消毒を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、運番職員が布巾、まな板など除菌している。 毎食前には、テーブルの除菌をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花壇、鉢植え、ベンチなど用意している。 また、家庭菜園があり、入居者と一緒に収穫を楽しんでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下は広く、設備などは家庭的な雰囲気有している 季節の花を飾り季節感を感じられるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーなどを居間に設置し、くつろぎの場を作り、入居者それぞれの居場所を確保し、自由に過ごすことが出来る。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使いなれた家具類を持参して頂いている。又独居していた方は仏壇の持ち込みもおこなっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度、湿度計で確認し、温度調節、を行なっている。 常時窓を開け、換気を行なっている。また必要に応じて加湿器を使用している。各居室に物干しを設置し、冬場の加湿を調整を行っている。		トイレ、汚物場にはカルミックを設置し、臭いが気にならないように配慮している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>廊下、トイレ、浴室に手すりを設置している。 玄関にはスロープを設置し、自立した生活を送れるように配慮している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室入口には本人の表札、写真を貼り、トイレ、浴室には認識できる様、標示してある。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭を設け、椅子やテーブルを設置。日光浴やお茶を飲んだりする事が出来る。 中庭には、家庭菜園があり、入居者と共に収穫を楽しんでいる。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)